

<対策のポイント>

メコン河委員会（MRC）に我が国専門家を派遣し、これまで我が国が東南アジア諸国で実施してきたかんがいに関する取組を活かし、流域国の支援を行います。また、メコン河流域国のタンパク源確保のための魚道整備に関し、他ドナー国と国際協調案件として、我が国の知見を活かした支援を行います。

<政策目標>

アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルールメイキングに参画（我が国を含むアジアモンスーン地域の水田農業の持続性の確保）（4地区以上のプロジェクトを実施〔令和10年度まで〕）。

<事業の内容>

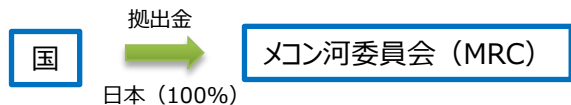
<事業イメージ>

2018年10月の第10回日・メコン地域諸国首脳会議において、「日メコン協力のための東京戦略2018」が採択され、メコン河委員会との連携の必要性が強調されています。

また、これまで我が国が東南アジア諸国に対し、かんがい技術に関するガイドラインの策定及び人材育成を実施してきており、それら成果について、メコン河流域国に普及させるため、当該機関に専門家を派遣し、下記の取組を行います。

- 我が国が東南アジア諸国を対象に調査し策定した、ほ場整備、TM/TC（遠方制御監視装置）、施設長寿命化、ICT（情報通信技術）を活用したかんがい、参加型水管理、地下かんがいなどの技術を、流域国が相互に抱える課題の解決に活用していけるようかんがい関係の技術マニュアルを包括的に取りまとめます。
- 我が国が東南アジア諸国で人材育成した技術者とともに、技術マニュアルの適用性の調査・普及のため、各国で地域単位及び全国規模のワークショップを開催し、我が国の支援の成果を普及させます。
- これまでにMRCによって作成された魚道整備ガイドラインに基づき、米国内務省（USDOI）及びオーストラリア国際農業研究センター（ACIAR）と連携し、新たな魚道整備の優先箇所調査を行うとともに、同ガイドラインの理解醸成のためのワークショップを行い、それを通じて人材育成を行います。

<事業の流れ>



〔事業実施期間：令和3年度～令和7年度〕

これまで東南アジア諸国で実施してきた取組を活かした支援

<これまで我が国が東南アジア諸国で実施してきたかんがいに関する取組>

- プロジェクトを通じて実証・策定した技術マニュアル**
- 参加型水管理
 - ほ場整備
 - 施設の長寿命化
 - 品質管理
 - テレメータ・テレコントロールシステム
 - 地下かんがい
 - ICTを活用したかんがい（水管理省力化）
 - 間断かんがい etc

人材育成（キャパシティビルディング）

MRCガイドンス



魚道整備に関する支援

前歴事業で策定された魚道整備ガイドラインを活用し、新たな魚道整備のための優先箇所調査を行います。また、同ガイドラインの理解醸成のためのワークショップを行い、それを通じた人材育成を行います。



魚道整備ガイドライン



ワークショップ

- 【お問い合わせ先】
- (1) 輸出・国際局国際地域課 (03-3502-5913)
 - (2) 農村振興局設計課海外土地改良技術室 (03-3595-6339)